

2019年度県立高入試の英検加算

準2級以上に 5点加算	金津、高志、藤島、 武生、武生東(国 際)、敦賀(普通)、 若狭(文理探究)
3級以上に 5点加算	上記以外の 22校55学科

19年度県立高入試英検加算 準2級 藤島など7校

加点幅縮小

福井県教委は12日、県立高一般入試の英検加点制度で2018年度に最大15点だった加点幅を19年度は5点に縮小し、藤島普通科や武生東国際科など7校8学科で準2級以上取得者、そのほかの学校・学科は3級以上取得者に加点する見直しを決めた。加点後の英語の上限は100点で変わらない。

【3面に関連記事】

準2級以上に加点するのはほかに金津普通、高志普通、武生普通、同理科、敦賀普通、若狭文理探究。18年度入試で受験生の8割が3級以上、4割が準2級以上を取得していた学校・学科を目安に、各高校と県教委が協議。12日開かれた県教育委員会での会合で決めた。

立高入試に英語スピーキングテストの導入を検討しており、導入した時点で英検加点制度をどうするか協議する」と説明。その上で「これ(加点制度)により中学校の英検3級取得者が62・8%という全国1位の割合を獲得したことは十分評価していきたい」と述べた。

県教委の佐々木栄秀学校教育幹は「準2級以上に加点する学校が増えることを願っている」と話した。

県教委は中学3年生対象の英検講座を8月に県内7地区で開き、民間のスピーキングテストを試行する予定。

英検加点制度は18年度入試で導入され、全校で2級以上取得者に15点、準2級に10点、3級に5点を加えた。県会は、準2級以上は中学校で習わない内容を含むなどと指摘し、見直しを求めている。今回の見直し内容について6月県会では特に異論は出なかった。

(小林真也)